



Data

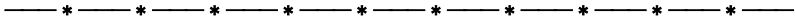
監督：ジェイ・ローチ
 脚本：チャールズ・ランドルフ
 出演：シャーリーズ・セロン/ニコール・キッドマン/マーゴット・ロビー/ジョン・リスゴ
 ー/ケイト・マッキノン/コニー・ブリットン/マルコム・マクダウェル/アリソン・ジャンネイ

👁️👁️ みどころ

メディアは中立で公正？いやいや、それはウソ！日本では朝日、毎日系 vs 産経系のバトルが顕著だが、二大政党制のアメリカでは、メディアも明確に共和党系 vs 民主党系に。視聴率トップを誇る「FOXニュース」は自他共に許す保守派メディアのリーダーだ。

今や全世界に広がった「#Me Too運動」も、その出発点は2016年にFOXニュースで起きたグレッチェン vs ロジャー事件。ハリウッドの豪華3大女優の競演！それが本作の売りだが、本作のテーマはそれだ。なるほど、だから大阪弁護士会で上映会を！

シャーリーズ・セロンが主演した『スタンドアップ』(05年)も面白かったが、ニュースより女性キャスターの脚の見せ方の方がもっと大事というご時世(?)では、本作は必見！さあ、あなたは本作から何を学ぶ？



■豪華3大女優が競演！主演・助演女優賞にノミネート！■

本作のチラシには、「本年度 賞レースの爆弾！」「豪華3大女優の競演に世界が騒然&絶賛!!」との見出しが躍っている。豪華3大女優とは、①売れっ子ニュースキャスターのメーガン・ケリーを演じるシャーリーズ・セロン、②ベテランニュースキャスターのグレッチェン・カールソンを演じるニコール・キッドマン、③新人ニュースキャスターのケイラ・ポスピシルを演じるマーゴット・ロビーの3人だ。女性に年齢を尋ねるのは御法度かもしれないが、3人の立場とキャラを明確にする一助としてそれを明示すれば、その設定は順番に44歳、49歳、27歳だ。

シャーリーズ・セロンとニコール・キッドマンは年代的に近接しているし、ハリウッドにおける実績も共に最高レベル。しかし、本作では、メーガンとグレッチェンはそれぞれ前述のように表現されているから、明らかにメーガンが主演。それは、本作をシャーリーズ・セロンの会社がプロデュースしたせいかもしれないが、もともと脚本がそうになっているのだから、そのことをもってシャーリーズ・セロンを責めるのは酷だ。しかし、「本年度 賞レースの爆弾！」になった本作で、アカデミー賞とゴールデングローブ賞の両賞において、シャーリーズ・セロンが主演女優賞にノミネートされたことをニコール・キッドマンはどう感じているの？そればかりか、マーゴット・ロビーも両賞で助演女優賞にノミネートされたから、ニコール・キッドマンはそれもどう感じているの？

本作は、2016年に発生したFOXニュースのセクハラ事件をテーマにした映画だから、この3人のキャスターの間で「女の戦い」が起きることはないだろうが、ひょっとして賞取りレースが終わった後、豪華3大女優の間でバトルが起きるかも・・・？

■□■「FOX ニュース」とは？その視聴率は？■□■

私は株式会社オービックの監査役をしているが、その役員会（取締役会）で、オービックのテレビコマーシャルの費用対効果の議論をした際、日本のさまざまなニュース番組の視聴率と料金についての資料を受け取った。そこでは地上波とBS、CSで明確な差があったうえ、『ニュースステーション』がダントツの1位であることに改めて驚いた。そこで興味深かったのは、2018年にNHKを退職した女性キャスターの有働由美子氏が新たにキャスターを務めた『news zero』の視聴率が意外に高かったことだ。このように私は日本のニュース番組についてはよく知っているが、アメリカのニュース番組についてはよく知らない。そのため、「FOX ニュース」と聞いてもピンと来ない。それは多くの日本人に共通だと思うので、本作を鑑賞するについては、あらかじめその点の予習をしっかりとっておきたい。

2020年11月にはアメリカ大統領選挙が行われるが、2016年11月の大統領選挙における共和党のドナルド・トランプ候補の予想外の勝利によって、「フェイクニュース」という言葉が大流行！トランプ大統領を批判するニュースは、ことごとく「フェイクニュース」と切り捨てられてきた。しかし、そのトランプ大統領が例外的に唯一好意的なのが「FOX ニュース」だ。民主主義国のニュース報道はすべて中立を原則としているが、ニュース番組によってその立場はかなり左右に偏っているのが現実。日本では朝日、毎日系 vs 産経系の対立はハッキリしている。FOX ニュースも「中立報道を心がけている」と主張しており、「Fair and Balanced（公平公正）と We report, You decide（我々は報道する、判断するのはあなた）」をモットーにしているが、現実には保守的傾向が強くて、そのため、共和党のブッシュ父子政権時代は大統領とのつながりが強かったが、民主党のオバマ政権時のFOX ニュースは政権批判の急先鋒を担っていた。

そんなニュース専門放送局である「FOX ニュース」は1996年にルパート・マードック所有のニューズ・コーポレーション（現：FOX コーポレーション）が、当時NBCの経営者ロジャー・エイルズを社長にして設立したもの。そして、1990年代末からCNNから視聴者を奪い始め、2000年からCNNと視聴者数で拮抗。そして2001年のアメリカ同時多発テロ事件を機に一気にCNNを引き離し、現在も視聴者数首位の座を守っているようだ。まずは、ここまで予習をしっかりとやった上、そんな「FOX ニュース」を襲った、本作がタイトルとしている「スキャンダル」とは？

■□なぜ弁護士会館で上映会を？セクハラ疑惑とは？■□

大阪弁護士会は会員の寄付を募って巨大な弁護士会館を建設したが、その活用が十分と言えないことは明らか。その2階は大ホールで、主に講義・講演に使っているが、時として映画の上映会をやることもある。私が弁護士会館をまともに使うのはそんな時しかない。前回上映したのは『ビリーブ 未来への大逆転』（18年）（『シネマ45』38頁）。これは85歳の、今はリベラル派の最高裁判事、若き日の1970年当時は、女性差別と闘う女弁護士だったルース・ギンズバーグを描いた映画だから、若手や女性弁護士に超お薦め！それが上映の狙いだった。しかし、本作も弁護士会が上映会を行ったが、それはなぜ？それは、本作がFOX ニュースに激震が走った2016年のセクハラ事件をテーマにしているからだ。

ニコール・キッドマンはハリウッド女優の中でも美女中の美女。したがって、そんな彼女が演じたベテランニュースキャスターのグレッチェン・カールソンも、ミス・ミネソタを経て、1989年にミス・アメリカに輝いた美女。そんな美女が、才色兼備のFOX ニュースの人気キャスターとして2005年から大活躍していたらしい。

ところが、2016年7月、姿を消していた彼女が突然、「セクハラ行為があった」として、FOX ニュースの会長兼最高責任者（CEO）であるロジャー・エイルズ（ジョン・リスゴー）を提訴したことが報じられ、彼女が弁護士を通じて、「今年6月、『Fox News』から不当に解雇された。エイルズさんとの面談で仕事上の不平不満を口にしたところ、むしろ性的関係を求められ、それを拒否したことが原因でした。これは女性に対する不等な扱いです」と説明したから、世間はビックリ！訴えられたロジャーCEOは「事実無根で大変な迷惑。契約の更新が思ったようにいかなかったことへの腹いせだろう」と真っ向から否定し対抗したが、親会社の「21世紀フォックス」は調査を開始することに。

なるほど、なるほど、こりゃ大変。現在では、「#Me Too運動」が世界中に広がっているが、FOX ニュースでグレッチェン vs ロジャーのセクハラ事件が起きたのは、それより1年前。「#Me Too運動」はグレッチェン vs ロジャーのセクハラ事件を聞いた女優のアリッサ・ミラノ氏が、同じようなセクハラ被害を受けた女性たちに向けて2017年10月に“Me Too”と声をあげるようTwitterで呼びかけたことがきっかけで始まった運動だが、

それを正しく理解するためにも、「FOX ニュース」で起きたこの事件の勉強は不可欠だ。そう考えると、弁護士法1条で、「基本的人権を擁護し、社会正義を実現することを使命とする」と規定している弁護士会としては、そんな映画の上映会をすることによって会員にしっかり勉強してもらわなければ。

■□■77歳にして本業も政治も元気！その上、お色気も！■□■

本作は3人の競演女優が、ホンモノそっくりのイメージで登場しているらしい。それは、『ウィンストン・チャーチル／ヒトラーから世界を救った男』（17年）（『シネマ41』26頁）でアカデミー賞メイクアップ&ヘアスタイリング賞を日本人としてはじめて受賞したカズ・ヒロ（辻一弘）のメイクアップのおかげらしい。それはそれでいいのだが、そのため私にはシャーリーズ・セロンとニコール・キッドマンの区別がつきにくくなり混乱する面も・・・。

本作の（第1の）事件は、グレッチェンによるロジャーCEOの提訴だが、裁判の状況が詳しく描かれることはなく、スクリーン上に登場するのは、グレッチェンと弁護士のナンシー・E・スミス、ニール・マリンとの打ち合わせ風景だ。しかし、それを見ていると、夫も子供もいるグレッチェンがFOXニュースのCEOを被告として提訴するのがいかに勇気が必要とする行為だったかがよくわかる。

本作が裁判の状況以上に詳しく描くのは、「FOX ニュース」という巨大組織の内部事情、ハッキリ言えばロジャーCEOを頂点とするピラミッド型の権力構造の実態だ。その一助として、本作冒頭では、メーガンが「FOX ニュース」が入っている巨大ビルのガイドをしてくれるので、まずはその勉強から。「FOX ニュース」が入っている巨大ビルは「FOX ニュース」と、その上部団体である「21世紀フォックス」等が入居する巨大なお城。したがって、「FOX ニュース」が使用する各フロアは、ロジャーCEOの戦略（好み？）によってすべての部局が割り当てられているらしい。そして、ロジャーの社長室は2階だが、自分好みいろいろな改装されているらしい。そのため、秘密の部屋（？）や、秘密の通路（？）も・・・？

ロジャーはこの2階の社長室で本業にも政治関連活動にも精を出しているが、77歳にしてなおお色気もムンムンらしい。これぞまさに、「英雄色を好む」のことわざ通り？ロジャーのアシスタントがフェイ・オルセリだが、彼女は2階の社長室の門番的存在らしい。したがって、ロジャーに面会するためにはさまざまな段階が必要だが、最終的にこのフェイのチェックを経る必要がある。ちなみに、本作中盤には、新人ニュースキャスターのケイラが社長室を訪れロジャーとの「ご対面」を果たすシークエンスが登場するが、そこでのやりとりは想像を絶するものなので、それはあなた自身の目でしっかりと！

■□■ニュースが大事？いや脚の見せ方の方がもっと大事！？■□■

昔は女性キャスターはお飾り的存在だったが、今やメインを張る女性キャスターによって番組の視聴率が左右されるから、ニュースの質や伝え方以上に、女性キャスターの知性と美貌そしてそのキャラクターの魅力が大事になっている。ベテランキャスターのグレッチェンもかつてはFOXニュースの看板キャスターだったが、今FOXニュースの売れっ子ニュースキャスターになっているのは、メーガン。

しかし、導入部でFOXニュースが入っているビルの構成から、FOXニュースの権力構造まで丁寧にガイドしてくれたメーガンも、今は何かと大変らしい。それは、メーガンが①アシスタントのリリー・ペイリン（リブ・ヒューソン）、②番組担当リサーチャーのジュリア・クラーク（ブリジット・ランディ＝ペイン）、③番組プロデューサーのギル・ノーマン（ロブ・ディレイニー）等と話している内容を聞けば、概ね見えてくる。さらに、今メーガンをイラつかせているのは、ずっと後輩の新人キャスターのケイラが、えらくのし上がるようにしていること。一方では「このひよっこが！」と思う反面、自分の年齢や自分より年上のグレッチェンのことを考えると、自分も世代交代を真面目に考えなければならぬの・・・？そんな不安でいっぱいらしい。

ちなみに、局の看板キャスターのテレビ映りについて、細心の配慮がされるのは当然。メイクさんやヘアメイクさん、衣装さんや小道具さんたちが、毎日その日の女性メインキャスターに合う服装を決めなければならないのは当然だ。しかし、そもそもテレビを観ている男性視聴者の視線は、どこを向いているの？キャスターが伝えるニュース内容に興味を持つ人がたくさんいるのは当然だが、ラジオではなくテレビでは、中年以上の男性視聴者の視線は否応なく女性キャスターのミニスカートから出ているおみ足に・・・？もしそれがホントなら、視聴率戦争に勝ち抜くためには、スカートはより短く、そしてカメラはより下から撮る必要がある。FOXニュースではそんな戦略も・・・？

なるほど、それならロジャーが女性メインキャスター候補と面接する時は、必ず立ち上がらせてターンする姿を確認していたこともうなずける。また、ケイラと面接した時に、ある行為を命じたのも、なるほど、なるほど・・・。

■ ■ 『スタンドアップ』から更に進化！賠償金額は？ ■ ■

ハリウッドを代表する豪華3大女優の中でも、本作のメインとして「FOXニュース」や「21世紀フォックス」が入る巨大なビルを案内してくれたのは、シャーリーズ・セロン演じる売れっ子ニュースキャスターのメーガン。しかし、本作前半は、前述のようにニコール・キッドマン演じるベテランニュースキャスターのグレッチェンがロジャーを訴えるストーリーを中心に描かれる。それを半ば尊敬し、半ば驚きの目で見ているメーガンだったが、よくよく考えてみると、私だって・・・？そう思い当たるセクハラ被害は、FOXニュースの中にはあれこれと。その加害者は、共和党支持を明言し保守的論陣が目立つFOXニュースの中でもひととき保守的な立場で某人気番組のメインを張る某人気司会者だ。

ちなみに、シャーリーズ・セロンは体重を10kg増やし、醜女メイクを施して世間をアツと言わせた『モンスター』（03年）で見事アカデミー賞主演女優賞を獲得したが、再度「汚れ役」に挑戦したのが『スタンドアップ』（05年）だった（『シネマ9』186頁）。同作のモデルになったのは、1998年に終結したエベレス鉦山vsルイス・ジョンソン裁判で、これはセクシャル・ハラスメント法制度に寄与した画期的な判例だと言われているものだ。同作では、女性差別に立ち上がり「訴訟提起」をした主人公が、さまざまな試練を乗り越えて最終的に「成功」というストーリーが描かれていた（和解によって多額の賠償金を勝ち取った・・・）。

そんなシャーリーズ・セロン扮するメーガンが、本作後半ではグレッチェンに続いて、FOX ニュースの某名物司会者をセクハラ疑惑で訴えるので、『スタンドアップ』より更に進化した、今日的なセクハラ闘争(?)のあり方をしっかり注目したい。

ちなみに、グレッチェンがロジャーを訴えた事件は和解で終了したが、和解条項の中に秘密保持条項が含まれていたため、和解金（賠償金）の額は公表されていない。しかし、一説では、それは2000万ドル（約20億円）と言われている。それに対し、すでに歴史的事実として公になっている「FOX ニュース」の人気番組『オライリー・ファクター』の司会者ビル・オライリーが複数のセクハラ疑惑で訴えられた挙げ句、親会社の「21世紀フォックス」からも見切りをつけられて降板するについては、番組出演者や制作スタッフなど5人の女性に1300万ドル（約14億円）を支払っていたことが報じられている。大阪弁護士会での本作の上映に感謝するとともに、自戒の念も含めて、本作の教訓をしっかり学びたい。

2020（令和2）年2月5日記